

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共六十錢）



編輯 兼行發 所刷印  
 小野 上野 中  
 忠 松 市 田 上 澤  
 郎 一 忠 松 市 田 上 澤  
 校 學 門 專 曲 市 田 上 澤  
 會 會 會 會 會 會 會 會  
 所 所 所 所 所 所 所 所

### 豫想と其實現性

石倉新十郎

現下の時局と共に一般の局面が將來如何に展開して行くであらうかについて、人々々々豫測する所であらうが、結局斷言しうる所は要するに解らないと云ふのが本當であらう。然し吾々の實生活は唯わかないままに成り行き任せにして置くわけにもならず、必ず何等かの豫想の下にそれ／＼計畫と處置をしなければならぬのである。其豫想に對する計畫と處置が果して適中するか否かに不安があり豫想の實現性が將來の運命を支配するのである。

豫想に對する計畫と處置には人々々の個性が現はれるものであつて、其れが健實であるか否かは或は冒險であると云ふ。然し乍らこの健實も冒險も本來は同じ性質のものであつて、豫想が假りに同じであるとしても將來に於ける實現が果して何うであるかに就いての確信の差異によつて人の執る可き手段が違ふ事となる。確信の薄い者は雨天式處置をとり、之れが所謂健實の方策であつて、確信の強い者は一方附いた處置を取り、之れが即ち冒險と謂はれるのである。然しこの冒險の方策も若し豫想が正しければ反つて此の方が眞に健實の方策となるのである。人の持つ豫想は假令他人の意見が参考されるとしても結局は其人の常識的推

測の結果であつて、必ずしも他の人の豫想と一致するものとは限らない。豫想は人の社會的立場と心的境地によつて異なるものとならう。自己の持つ豫想に對して餘り確信の無い時は自然他人の意見に參考しやうとするであらうが、若しそれが自己の豫想と異つた場合果して何れが實現性に富むか問題となり悩みの根源となるであらう。そこで様々地位境遇を異にする人の意見を多く集め之れを多數決的に見定めた所を以つて基準とし、其れに信頼を置かうとする。そして其の人の個性を帯びた計畫と處置を施し、以後實際に起つた結果が假令豫想と違つたとしても其れは止むを得ないものとして諦めるのが普通である。斯く諦めれば其人個人はそれで治りはつくが、若し多勢の人が同じ局面に於いて同時に同様であつたとしたならば、之れを社會的に見て唯天運であつたと濟してしまふ譯に行かない場合があるであらう。政治家、實業家の計畫や教育家の方針等々又それである。

然らば如何なる人の豫想が最も實現性に富むだらうかと云へば、それは世運の眞相を良く見極めて居る人の豫想に限るのである。然しそう云ふ人は残念ながら現代に稀有なるを如何せんである。斯かる達人は常に世俗的慾心から超越して居り、然も眞に社會の安危に關心を保持して居る人である。恰も自然現象を観察し之を研究する科學者の如き態度にある人である。自然現象に對する科學者の豫想が何故に實現性を多分に持つものであるかそれは觀察の對照たる自然現象が科學者の社會的存在に殆ど無關係であり、甚だ容易に自我的慾心から超越する事が出来るのであつて、常に眞相を正當に觀察しうるからである。然るにこの世運の眞相を正當に認識する達人は何故に斯く稀有であるのであらうか。それは自己の生存を直接關係する人間社會の現象に對して超越することが殆ど不可能であるからである。だから社會的事象となると目先の問題にすら豫想が必ずしも適確でなく、少し先の事となると殆ど豫想することさへ不可能となるのである。

超越的達人が世運觀察をする心的態度を察知するに、恰も人間以外の生物が靜に人間社會を眺める様にものである。そこには何等の希望も理想もなく、過去現在が如何様であらうとも何等感情を參與させることがない。従つて將來にどんな結果が持ち來されやうが無關心である事は眞の科學者が自然現象に對する態度と全く同様である。そこに人間社會の因果關係が明瞭となり、過去から現在に至つた經過から必然的に歸結される可き將來の豫想が判然と推定されるのである。醫者の子が大病で危篤に瀕した時親は名醫であつても生死の豫想がしにくい場合にも他人である普通の醫者が容易に豫想する事が出来るものである。達人の豫想は斯く多數社會人の豫想と根本が違つて居るのであつて、それが實現性に富むのは眞に當然であるといはなければならぬ。

達人は人間社會から全く超越して之を観察するが、達人とて同じく現實に社會人である。達人である程社會に對して仁者であるのが常である。社會人に先んじて社會を愛ふる餘り、時には世人を牽動せしむる警鐘となる。日蓮の痛罵説教は即ちこれであらう。假令吾々の耳には入りにくくとも吾人は達人の言に耳を傾く可きである。

蘭 鈴 簾  
 芝 生 之 綠

春……鈴蘭狩り  
 ハイキング  
 夏……キャンプ場  
 冬……スキー

ハイキングコース、キャンプ場等は御問ひ合せ下さい

千曲會指定旅館

信越線上田駅前	上村館	電話上田344
長野縣菅平高原	菅平ホテル	電話菅平局呼出
長野縣菅平高原	鐵道省 山の家	電話菅平局呼出

現代乾蘭機界ノ王座  
 大和式自動輸送乾蘭機

二五九九年代表型

製作發賣元  
 株式會社  
 大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地  
 電話京橋(56)五三二〇〇番  
 〃〃〃〃〃〃五三二〇〇番  
 〃〃〃〃〃〃五三七四

營業課目  
 特許大和式自動輸送乾機  
 特許大和式自動人絹乾燥機  
 特許帶川三光式乾燥機  
 特許やまホ式乾燥機  
 特許サンコー式濾過淨水装置  
 特許サンコー式廢湯吸熱器  
 特許サンコー式高壓ポンプ  
 特許サンコー式トラップ

或る日の午後

岩崎生

七月の或日の午後であつた。吾一は眞夏の太陽を浴びながら、工場内の庭を歩いた。天津の夏は、さすがに、大陸だけあつて、日中百三十度ぐらゐは、毎日の事であつて、歩いてゐると、汗がジリ／＼と滲み出て、シャツを通し上着を濡らして了ふ。...

普通の建物だ。材木で建てる爲には煉瓦煉瓦よりも、莫大な費用が入る。材木は煉瓦よりも貴重である。その煉瓦の壁に「君子自重」と書いてある。...

「包衣、ライタイ、快々的」の口癖が、吾一には、何となく、不快な感じがした。...

優生斷種法の共鳴者としての感想

病理生

近世に於て生物學的に根據を置く優生斷種法は、社會的の反響を蒙るものがある。...

優生斷種法の實行は、國家の強弱に關係する。...

(三頁へ續)





代用品研究時代

編輯室

只今の地球の戦子の表では東亞新秩序建設の聖戦が動き、裏では第二回目的の歐洲戰亂勃發を前に控へて何れの國も軍備に、資源獲得に汲々とし、一觸即發の寸前に雄雄を決せんとして居る。斯る状態にある各國は何れも資源の重要なを認識して来た様な課で、時局下の本邦としても同様であつて延びて代用品の發明獎勵も刻下緊急事として取上げられて居るのである。記者の一人は最近公用を帯びて代用品研究の狀況視察旅行を企てたが、今更ながら各方面共此方面の熱心な研究の動きが窺はれて實に驚いたのである。

其折商工省特許局を訪ねた所之亦代用品發明研究助成に大童であつて先輩兒玉技師が此方面擔當で時節柄大忙の様であつた。

各會員の大多數は已に御承知の事と思ふが念のため商工省の「代用品發明研究補助金交付」の内容を御知らせ致し發明研究の便に供したいと思ふ。

尙又纖維工業界では纖維統制につれて未曾有の纖維難を招來し代用纖維の研究は纖維科學の窺兒の如く層層の動きの活潑なる事は想像以上である。従而此の折に世間には纖維で代れ纖維で起る者、層物で代れ層物で立つものが數限りなく多く表面に出でずに埋れて居る事と思はれる。纖維工業に携はる者としてはそれ丈け神經過敏ならざるを得ない。此際に同窓の一人大阪府の内藤技師が大阪の光棉研究會主催の層物纖維利用懇談會講演會に懇望されて「纖維統制最近の動向と層纖維」と題して講演され一般業者に資する事が多かつた由。おそらく會員諸君の生産に携はる者、又は需要の側にある者等の何れを訪はす一讀する價值がある

と思ふから序でながら申添へて置く。速記録も紡織雜誌社から已に六月發行されて居る故遅れながら御知らせする。

代用品に關する發明研究の助成に就て

現下の時局に鑑み代用品に關する發明研究の獎勵を圖ることは刻下喫緊の要務でありまして、之が爲政府に於ては今般特に第二豫備金より代用品に關する發明研究の補助費を支出することと爲つたのであります。凡そ棉花、羊毛、ゴム、皮革、鐵鋼、銅、錫等幾多の物資の制限の爲從來此等の物資を其の全部又は一部に使用し來つた各般の商品が、其の製造に著しい困難を生ずるに至つたことは周知の通りであります。例へば眞鍮、銅線、「ハンダ」等の使用制限の爲電球の製造に困難を生じ又「ブリキ」、眞鍮、「コルク」、「ゴム」、鐵線等の使用制限の爲魔法燈の製造に支障を來した如きは其の一例であります。此處に於て一例を電球にとつて謂へば、口金の眞鍮を陶器を以て置き代へて取付口としての用を達すと云ふ工合に、所謂制限物資を他の制限を受けざる物資に以て置き代へて各商品本來の目的を發揮せしめることは極めて肝要なことであつて、之には勿論種々の技術的研究を必要とする次第であります。而して此等の研究に對し研究費を補助せんとするのが即ち今回の補助金交付の制度であります。故に從來此等の研究に從事して居る方々又これから大いに之等の研究を爲さんとする方は此の制度を利用することが便宜であります。右の補助金の交付を申請せんとする場合には別記申請書様式及記載心得に依り書類作成の上一應地方長官を經由して商工大臣に提出することに爲つて居ります。(尤も已むを得ない場合には右の期間經過後申請書を提出しても差支ありません。)

特許局總務部調査課 尙特許局の兒玉技師(絲二)が其の係の人である故詳細は同氏に御問合せあれ。

御挨拶

拜啓秋冷相催候處各位益々御清祥の段賀上候。陳者小生儀過般長野蠶業試驗場上田支場長兼長野蠶業試驗場勤務を命ぜられ主として上田支場に勤務することになり相成申候間今後一層御鞭撻と御指導を賜り度備に御願申上候。先は乍略儀紙上を以て御挨拶申度如斯願申上度如斯御座候。昭和十四年九月 久保田正樹 長野蠶業試驗場上田支場内

御挨拶

謹啓 殘暑の折柄皆益々御清祥奉賀候。陳者小生儀承らる蠶業獎勵事務に従事致し居り候處今更不圖も農業保險の事務に携る事と相成候に就ては何卒將來不相違御指導御鞭撻の程只管御願ひ申上度候。先は乍略儀紙上を以て御挨拶申度如斯願申上度如斯御座候。石川縣農林課 石原石司

新任御挨拶

拜啓 秋冷之候と相成候處益々御健勝の段奉大賀候。陳者今更小生儀母校製絲科に副手として勤務致す事と相成候に就ては今後共宜御指導御鞭撻賜度奉懇願候。先は不取敢乍略儀紙上御挨拶申上度如斯御座候。昭和十四年九月 大平正三

新任御挨拶

謹啓 時下秋冷の候愈々御健勝の段奉賀上候。陳者小生儀昭製絲株式會社在職中は公私多大の御懇情を賜り難有奉深謝候。今回都合に依り退社、母校製絲科に勤務致す事と相成候に就ては今後共一層の御指導御鞭撻願申上候。先は乍略儀紙上御挨拶申度如斯御座候。敬具。昭和十四年九月 製絲科 市原文雄

乾燥論 鈴木三郎著 蠶絲業界の福音!!! 菊判洋裝函入 定價 五十六頁一五三圓 送料 三十三錢

好評論 荻原清治著 好評噴々 菊判洋布函入 定價 三三〇頁一〇〇圓 送料 二十一錢

煮繭論 好評論 菊判洋布函入 定價 三三〇頁一〇〇圓 送料 二十一錢

製絲法 最新刊 四六版並製 定價 二九六頁三二圓 送料 十四錢

製絲法 東京市神田區錦町一 振替東京一三一九〇 明文堂 進目圖書

母校ニュース

第一秋實習を終了 八月一日より宮坂講師、小林副手、市原臨時指導の下に...

製絲科職員の乾繭 絲一年の養蠶實習で得た七拾餘貫の夏繭乾燥を八月一日製...

小泉所講師教授となる 昭和十一年四月から上田中學と兼務の講師として農業...

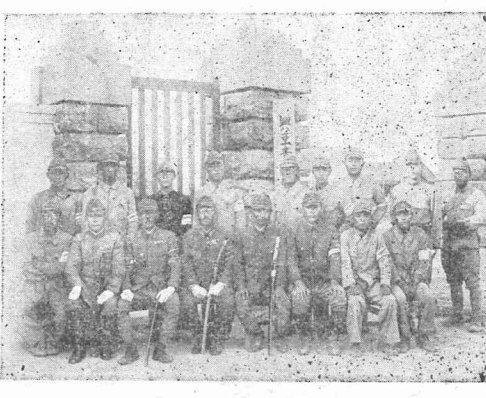


昭和八年京都帝大出の新進氣鋭の經濟學士で期待される所大なるものがある。已に五月から校友會幹事部長を勤められて...

かれ母校からも井上校長が出席された。参加校十三校にして、提出協議事項二十餘項に就いて協議された。協議事項中主なるものを拾へば次の如し。

新任御挨拶 謹啓 秋冷之候各位益々御清邁の段奉賀上候。陳者小生僕今回不圖本校講師を拜命致候に就ては微力...

既報興亞勤勞報國學生隊歸校 興亞勤勞報國學生隊に派遣された滿洲班(行元生徒主事以下十一名)...



七月十二日上田出發、同十三日より一週間内原訓練所にて訓練、同廿三日原出發、同廿五日新湯出發、同廿六日羅津着...

本會記事

本會日誌

八月九日 時報發行日臨時變更屆提出す  
八月十日 齋藤理事福島縣榮轉に付送  
別會舉行す  
八月十三日 齋藤理事を上田驛に見送る  
八月十八日 宮崎貞亮外六十五名へ慰問  
品發送す  
八月三十一日 田村亮外五十四名へ慰文  
寫眞發送す  
九月六日 深美政人(絲二十四)逝去せら  
る、悔狀發信す

針塚長太郎先生謝恩(第九回) 記念資金受領報告(九月五日現在)

金貳拾四圓也 中田 太郎  
金貳拾圓也 栗林 悦  
金拾五圓也 萩野 轍間  
金九圓也 青木 幸雄 成尾喜八郎  
金六圓也 藤井 温彦 本間 茂範  
金壹圓也 森川 博  
右合計金九拾六圓也  
累計金壹萬〇貳百五拾五圓也

針塚長太郎先生謝恩(第九回) 記念資金申込報告(九月五日現在)

青木 幸雄  
内田訓之亮(追加)  
栗林 悦(追加)  
西原 藤  
右合計金拾五圓也  
累計金壹萬〇四百八拾參圓也

内田先生記念品贈呈資金募集

拜啓 時下益々御清稷之段奉恭賀候  
緒て内田先生には御承知の如く大正十二年十二月母校御就任以來實  
に十有五年の久しきに亘り母校教育として或は又校友會部長として  
全力を傾けて御盡下され母校のため貢獻せられしこと眞に大なる  
もの有之吾々會員一同感謝に不堪所に御座候  
然るに此の度七高工増設さるゝや招かれて多賀高等工業學校機械科  
長に御榮轉せられ既に新任地へ御赴任被遊候  
就ては此の際先生の御功績を讃へ且多年の勞に報いん爲資金を募集  
し記念品を贈呈し聊か感謝の微意を捧げ度候間左記要項御諒承相成  
御贊同の上御醸金被成下度此段御依頼旁々得貴意候 敬 具

募集要項

- 一、贈出金額 御隨意  
二、申込期限 昭和十四年十月末日迄  
三、送金先 上田蠶絲專門學校千曲會 便宜上千曲會の振替貯金口  
座(長野六二四三番)御利用相成度尙「内田先生記念  
品贈呈資金」なる旨御明記願上候  
千曲時報に掲載し受領證に代ふ  
一、受領證  
二、記念品選定及贈呈方法は發起人に御一任相成度

發起人(五十音順)

- 上田 岩原 清治 岡本 榮一  
川村 五郎 近藤 正徳 須田 圭二  
小松 忠幸 手島 孝一 西原 保美  
松野 功 山崎 良人 山崎 保美  
渡邊 綱男 山崎 良人 山崎 保美

會費領收(九月五日現在)

昭和十四年度會費金四圓也  
池田 善三(蠶五) 兒玉 信彦(蠶五)  
野里 秀直(蠶七) 北澤 延榮(蠶三)  
河野 太郎(蠶三) 町田 博(蠶三)  
小林 敏夫(蠶三) 戸塚 一(蠶三)  
鈴木 俊夫(蠶三) 北原 幸治(蠶三)  
山田 次男(蠶三) 黒岩 豊(蠶九)  
成尾喜八郎(蠶八) 宮下 丈夫(蠶四)  
鈴木 武夫(蠶三) 宮下 丈夫(蠶四)  
湯原 諒(蠶七) 高木 徳男(蠶八)  
昭和十三年度會費金四圓也  
北條五郎右衛門(蠶七) 田近藤(蠶三)  
青木 幹夫(蠶三) 成尾喜八郎(蠶八)  
入會金納入者  
完納者  
鈴木 茂(蠶三) 北原 幸治(蠶三)  
金拾六圓也 宮下(蠶四)

准會員諸姉二告げ

千曲會准會員會費昭和十三年度  
(自昭和十三年四月)分金八拾錢  
(至 全十四年三月)分金八拾錢  
也未納ノ方ハ至急左記へ御拂込  
ミ被下度右御通知申上候  
記  
拂込先キ  
上田蠶絲專門學校千曲會  
振替口座番號 長野六二四三番  
願ニ依リ講師囑託ヲ解ク  
八月三十一日

叙任辭令

舊職員之部  
東京帝國大學教授 春日井新一郎  
中華民國(出張ヲ命ス)(六月四日)  
地方商工技師 早乙女新一郎  
十級俸下賜(六月三十日) 松岡重三郎  
公立高等女學校校長  
七級俸下賜(七月二十七日) 内田 浩  
多賀高等工業學校  
教授正五位勳六等 内田 浩  
兼多賀高等工業學校生徒主事  
敍高等官三等(八月十七日)  
東京帝國大學教授 春日井新一郎  
中華民國(出張ヲ命ス)(八月二十四日)  
母校之部  
任上田蠶絲專門學校教授  
敍高等官七等  
十一級俸下賜  
八月十四日 講師 松岡重三郎  
願ニ依リ講師囑託ヲ解ク  
八月三十一日

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

一、應召者に就て  
應召された場合は其の旨本會迄御一報願ひます。本紙會員動靜欄  
へ登載以外に應召會員御承知の方は左記事項本會迄御通報下さい  
2、家族の現住所及氏名(留守中の通信先)  
3、所屬部隊變更に就て御願ひ  
軍務御多忙中甚だ御迷惑の御願ひですが所屬部隊變更なさ  
れました場合は其の旨御一報願ひます。  
三、召集解除者に就て  
召集解除になつて歸郷せられし場合は直に御一報願ひます。

叙任辭令

講師ヲ囑託ス  
八月三十一日 柳澤 延房  
大平 正三  
副手ヲ命ス  
製絲科勳務ヲ命ス  
八月三十一日  
卒業生之部  
朝鮮産業技師 萩野 轍間  
江原道産業技師ニ補ス(六  
月二十九日)  
朝鮮公立實業 學校校長兼教諭 伊藤 喜代  
高等官六等ヲ以テ待遇セラル(六月三十  
日)  
地方農林技師 齋藤 菊雄  
福島縣農林技師ニ補ス(八月  
五日)  
同 白井 要範  
十一級下賜(八月一日)  
叙從六位(六月一日) 鹽見 豊一  
十級俸下賜 地方農林技師 安川 寛  
公立實業學校教諭 天田香三郎  
七級俸 當分年俸下賜(以上六月三十日)  
岐阜縣農林技師 北澤 周一  
陸軍砲兵 軍曹  
地方農林技師ニ任ス 高等官八等ヲ以テ  
待遇セラル 福島縣農林技師ニ補ス 十  
一級俸下賜(以上八月十二日)  
正六位 岡部 康之  
叙從五位(六月十四日)  
從六位 齋藤 菊雄  
正七位 山口 貞周  
同 江頭 辰雄  
叙七位(以上六月十五日) 黒岩 覺  
地方農林技師 金兒 文夫  
九級俸下賜(六月三十日)  
石川縣農林技師 石原 石司  
地方農林技師ニ任ス 高等官七等ヲ以テ  
待遇セラル 石川縣農林技師ニ補ス(八  
月二十五日)



紐育通信

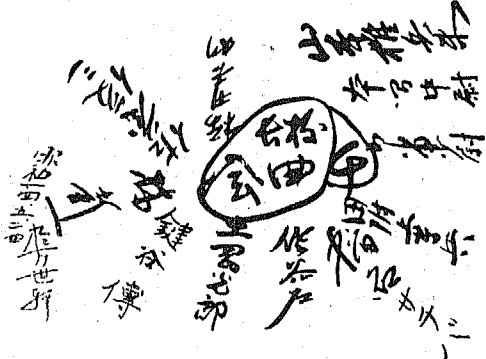
林貞三

炎暑の初り益々御健勝に被爲渡候事と... 紐育通信の主要部(レッグ部)も従来十四中... 紐育通信の主要部(レッグ部)も従来十四中...

支會通信

農學校長千曲會の記

長くも學生、生徒、御親類を賜ふた後... 農學校長千曲會の記の本文...



加ふることは誠に嬉しい次第である... 支會通信の本文...

分な。いアルコホルも相當らしい... 支會通信の本文...

山本南次郎部。この人よく肥えた堂々... 支會通信の本文...

計十二名となつてゐる様である... 支會通信の本文...

石川縣生絲検査所に勤務されてゐた深... 深美政人氏逝去の本文...

計報

深美政人氏逝去

右深美氏の弔慰金を募集致します... 計報の本文...

弔慰金報告

- 故大名氏弔慰金第四回 千曲會... 弔慰金報告のリスト...

會員消息

友と會ふ

破帽生

三月、俺達は校門に別れを告げた。皆様に親切な希望を以て社會に出た...

輝かしの人生の門出には幾多の笑があつた。幾多の涙がかくされてゐる...

三日月と云ふ貴重なる破帽を此の上も。無愛したる男は研究所に就職した...

學校を出るとクラス・メイトに會ふのが一番嬉しい。一や二に會ふのは...

秋が来た。上田の青い空と赤い林檎が。思ひ出される。世の各地にやがて...

旅は青空

降りさうな空模様。少しく降りない。早朝の朝霧が、安東省の方を歩かす...

徳永忠祥君の近況

中島 熊保

同君は舊姓を宮崎君と云ひ母校卒業と同時に、東京に於て徳永君と云ひ...

戦地通信

平岡英司氏より

時下敵機の折柄、校長先生にはその御下校の御折柄、校長先生にはその御下校の御折柄...

多川澄平氏より

在りては、御下校の御折柄、校長先生にはその御下校の御折柄...

岩切作次氏より

暑中御伺ひ申上候。酷暑の御折柄、校長先生にはその御下校の御折柄...

赤尾文頭氏より

本年立秋を過ぎて何日迄も暑き酷しく殊に。結核の御折柄、校長先生にはその御下校の御折柄...

鈴木英夫氏より

残暑の折柄、校長先生にはその御下校の御折柄、校長先生にはその御下校の御折柄...

御省念、下今敵の状況は非常に弱。昨今敵の状況は非常に弱。昨今敵の状況は非常に弱...

信濃教育品株式会社 サトウ商店. 農薬薬品 化粧品. 三共農薬薬品ウズブルン. 化学染料 山崎山林堂. 合資会社 河合商會. 電話 八二七 (海野町業管所)



會員動靜 (九月五日)

- 坂田 榮雄(蠶) (勤) 從前通り(住) 福井市日之出中町一四
佐藤 尚雄(蠶) (勤) 津市津島町三丁目一五
式田定千代(蠶) (勤) 奈良縣高市郡今井町、高市郡農會(住) 奈良縣磯城郡川
東村大字檜垣
齋藤 菊雄(蠶) (勤) 福井縣川町、福井縣蠶業試驗場(舊、北信支會)
森本爲之助(蠶) (勤) 長野縣上高井郡須坂町、長野縣經濟部上高井出張所
(舊、龍川支會)
上林多兵衛(蠶) (勤) 香川縣木田郡平井町、香川縣蠶業試驗場(住) 平井町池
戸(舊、東京支會)
都丸 晴治(蠶) (勤) 群馬縣佐波郡境町、群馬縣蠶業取締所境支所(住) 境町
五〇四
仲内 靜(蠶) (勤) 長野市岡田、長野縣蠶業試驗場
松岡 潔(蠶) (勤) 長野縣下水内郡飯山町、長野縣蠶業取締所飯山支所
(舊、北信支會)
清家 重明(蠶) (勤) 朝鮮黃海道平山郡、南川農蠶實習學校
青木 幸雄(蠶) (勤) 長野縣東筑摩郡筑摩地村(舊、山陰支會)
細川 豊(蠶) (勤) 從前通り(住) 上田市市中常田町
芝野 三郎(蠶) (勤) 應召先變更
上村 賢造(蠶) (勤) 應召先變更
水野 義男(蠶) (勤) 召集解除(勤) 新潟縣中魚沼郡十日町、新潟縣蠶業取締所十
日町支所(住) 中魚沼郡田澤村
白土孫七郎(蠶) (勤) 召集解除(勤) 新潟縣岩手郡大野村、福井縣蠶業試驗場(住) 大野村大
字白木原
國島 正(蠶) (勤) 召集解除(勤) 岐阜縣高山市、岐阜縣高山蠶業試驗場
奥村 忠治(蠶) (勤) 召集解除(勤) 岐阜縣立川町、東京府蠶業取締所立川支所
坂本 勝三(蠶) (勤) 應召先變更
坂内 好武(蠶) (勤) 應召先變更
竹内 善次(蠶) (勤) 應召先變更
秋山 利夫(蠶) (勤) 應召先變更
宮下 弘(蠶) (勤) 應召先變更
太田 光(蠶) (勤) 應召先變更
北本 重郎(蠶) (勤) 應召先變更
好士 泰造(蠶) (勤) 應召先變更
白井 要範(蠶) (勤) 應召先變更
則信 忠夫(蠶) (勤) 應召先變更
宮崎 弘(蠶) (勤) 應召先變更
須永 茂(蠶) (勤) 應召先變更
徳永 忠祥(蠶) (勤) 應召先變更
西尾 重郎(蠶) (勤) 應召先變更
矢島 文男(蠶) (勤) 應召先變更
西山 徳治(蠶) (勤) 應召先變更
太田 三郎(蠶) (勤) 應召先變更
中山 泉(蠶) (勤) 應召先變更
中村壽恵男(蠶) (勤) 應召先變更
宮坂 三郎(蠶) (勤) 應召先變更
土生 瑠(蠶) (勤) 應召先變更
東島藤五郎(蠶) (勤) 應召先變更

- 土屋三男(蠶) (勤) 應召先變更
古田 力(蠶) (勤) 應召先變更
深美 政人(蠶) (勤) 昭和十四年八月三十一日死亡
中村 達(蠶) (勤) 應召先變更
山口 宗久(蠶) (勤) 應召先變更
原口 和(蠶) (勤) 應召先變更
飯島 貞雄(蠶) (勤) 應召先變更
岡 豊治郎(勤) (勤) 從前通り(住) 愛知縣津島町大字向島字居森一
〇三二
笠原 五郎(勤) (勤) 京城市南米倉町二〇五ノ二、第一工業製藥、京城出
張所(舊、北陸支會)
藤本他喜男(勤) (勤) 彦根市西馬場町、近江絹絲紡績株式會社內、近江實修
工業學校(住) 彦根市西榮町二丁目(舊、東海支會)
吉田 義夫(勤) (勤) 應召先變更
香掛 祥平(勤) (勤) 應召先變更
大塚 浩(勤) (勤) 應召先變更
平林 孝方(勤) (勤) 應召先變更
阿久津伊平(勤) (勤) 應召先變更
小林 敏子(勤) (勤) 應召先變更
萩原さか(勤) (勤) 應召先變更
(勤) 東京府立川町、東京府蠶業取締所(住) 全上(舊、北信支會)
(勤) ナン(住) 東京市深川區毛利町三ノ一、龜井中英方(舊
山陰支會)

本紙の爲に告ぐ

最近時勢の進展に伴ひ吾が蠶絲、纖維
に關する學界、業界は多事多難にして
吾々會員の難處に益々華やかならんとし
研究、事業兩方面に益々大なる業蹟の擧り
ある、従つて本報にも其等關係記事が
追々増加しつゝあることは編輯部記者
の益々充實整美、向上發展の爲に各位の
益々多からん事を願つて止まない。

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會
員消息に關する物は特に歡迎。取捨
都合に依り全部又は一部を來月廻し
とする事がある。
一、原稿は特に豫め申込無き限り返展致
しません。
一、締切は毎月末日限、特に一月號は一
日發行とする爲め二十日限とする。
一、原稿は開封して三錢切手(第四種百二
五瓦迄)を貼布して送附し通信費が
あつたら別に葉書等に通知される
が得策である。
一、必ず原稿紙を使用し明瞭に普通平假
施して一字分の間隔を置いて下さい。
一、匿名を掲載希望の場合も編輯部へ
遺稿紙を別紙に提出せらるれば
ます。

優良蠶種案内

- ◎昭和十五年産蠶種
× 分月白一號 絲質特優
× 分月白二號 太並=
× 分月白三號 細兩種
× 分月白四號 細兩種
× 分月白五號 細兩種
× 分月白六號 細兩種
× 分月白七號 細兩種
× 分月白八號 細兩種
× 分月白九號 細兩種
× 分月白十號 細兩種
× 分月白十一號 細兩種
× 分月白十二號 細兩種
× 分月白十三號 細兩種
× 分月白十四號 細兩種
× 分月白十五號 細兩種
× 分月白十六號 細兩種
× 分月白十七號 細兩種
× 分月白十八號 細兩種
× 分月白十九號 細兩種
× 分月白二十號 細兩種

廣告規定

寸法	期間	一月	六月	一年
一頁	一ヶ月	1,000	5,000	10,000
二頁	一ヶ月	2,000	10,000	20,000
三頁	一ヶ月	3,000	15,000	30,000
四頁	一ヶ月	4,000	20,000	40,000
五頁	一ヶ月	5,000	25,000	50,000
六頁	一ヶ月	6,000	30,000	60,000
七頁	一ヶ月	7,000	35,000	70,000
八頁	一ヶ月	8,000	40,000	80,000
九頁	一ヶ月	9,000	45,000	90,000
十頁	一ヶ月	10,000	50,000	100,000

編輯室より

△九月に入つて涼しくはなつたが、未だ
暑さは大分残つてゐる。學校では第
二期が始つて、緊張と學ばんかなの空
氣に充ちてリズミカルな躍動が波打つて
ゐる。
△早天續きて悲鳴を擧げたのは誰しもの
ことであるが、西日本に於ける早害は想
像以上の由で、衷心より御同情と御見舞
の言葉を申し上げます。
△本會の庶務係の方では只今其の後の慰
問袋發送中であるが應召先や其の後の變
更等不明の者があつて困つてゐる由、本
會との連絡を怠らぬ様願ひます。
△再び岩崎氏が「或る日の午後」で天津
の事を書かれた。大陸認識と言ふ固いこ
とは抜きにして實に面白く讀めるもの、
病理生「斷種法の共鳴者としての感想」
も次世代國民の問題が論議されてゐる今
日一寸面白い。筆者自身其の必要のある
者らしい。
△岡氏の「織都一ノ宮より津島へ来て」
を見らるとお互に體驗する職業的苦樂をよ
く表はしてゐる。後輩にとつては好い參
考にならう。
千曲時報編輯部
小松忠一郎 町田 博
山田 良人 久保 藤一